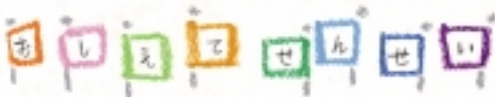


# 教えて先生



ママの悩み



Q

私は今年離婚をしました。4歳の子どもがいます。子どもは元主人になついていたせいか、毎日のように「パパは？」「パパは？」と聞きます。「お仕事に行ってるのよ」と伝えているのですが、毎日聞かれるのが辛いのと、これから先もずっと「お仕事」では通らないと思います。どう話してあげれば、子どもの負担にならずに済むのでしょうか？

A

離婚して、パパになついていた4歳のお子さん二人で暮らしていらつしやるんですね。急な生活の変化の中で、たぶん、ママ自身の精神的動揺の影響もあって「パパは、パパは」を繰り返しているのではないのでしょうか？

離婚によるひとり親家庭の中で、年齢の高いお子さんほど一時的に不安定になりがちで、「パパは？」と繰り返し聞かれることで、ママの不安が増幅し、それが又相互に影響するという悩みはよく聞かれます。

随分以前のことでありますが、福岡県の教育委員会の家庭教育相談事業の企画や運営に関わり、3歳児を長子にもつ家庭に子育てについての通信文を執筆していた頃、ひとり親の子育てが話題になって、昭和63年度の『わんぱくざかり』（4・5歳児のすこやかな成長を願って）という冊子に単身親家庭という項目の執筆を分担したのを思い出します。

それから二十年余り経った今年、北九州市内の保育所に在園する15777名について調査したところ、約17パーセントが、ひとり親家庭で、その中の93パーセントが母子家庭でした。この傾向は各区共通で、今後益々増加していくことが予想されます。

離婚の背景や生活の状況は各々異なりますから、ママの悩みやお気持ちを納得させる回答になるかどうか案じながら60年余りの保育人生の中で出会った同じ境遇の子ども達の間で例をいくつか述べて、一緒に考えてみたいと思います。

〇七五三の帰り、睦じそうに立ち寄ってくれた家族四人でしたが、お正月過ぎた頃から、母と子の暗い表情が気になり始めました。四月、進級後間もなく離婚成立を報告に来たママの表情は晴れやかでした。「経済的には不安もありますが、年長の娘は理解してくれたので明るく、がんばります。」ということでした。下の娘は、パパが大好きで淋しそうでしたが、暫くすると三人の暮らしに慣れて、それまでの暗さは全く感じられなくなりました。

〇4歳の男児を引き取って養育費を貰う代わりに、月一回パパに会わせることを条件に離婚した家庭の例です。担任が感じるのは、パパと会った翌日の本児の不安定な行動でした。知的面ではむしろ高い方ですが、衝動的でキレやすく、ママも心配して、就学相談に行くなど悩んでいます。パパ方とママ方、二つの異なる環境の影響がないとは言えないように思います。

〇DVで漸く離婚が成立したママがいます。子どもには優しいパパだったので会わせる約束でした。復縁も求められたようですが、養育費も不払い、数年経って子ども達も全くパパに関心を持たなくなりました。ママもがんばって働いています。子ども達も小学生になり、離婚の原因を理解してよくママを助けています。何れも、あなたのケースとは異なるかもしれませんが。

ひとり親として気をつけたいのは、パパの代わりもしなければと、必要以上にママが肩肘を張って構えず

きたり、いきり立つと子どもは温かく優しいママまで同時に失うこととなります。逆に、余り弱気になる家の中が暗くなります。

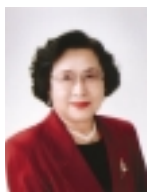
何よりも大切にしたいのは、ママのゆとりある安定感です。

そのためには、自立への意欲努力が必要ですが、限界をもつ人間として、しなやかな心で、必要な協力や支援を受ける姿勢も大切にしたいものです。親・きょうだい・友人・近所の方・ホームドクターなど、又私たち保育園もお役に立ちたいと思っております。

「パパはお仕事」というごまかしは、次第に通用しなくなるでしょうから、パパとママが何故別れたのか、そのお気持ちをお子さんが分かる範囲でお話なさってみるのも一つの方法です。たぶん、ママの力になるうという気持ちを持つてくれるのではないのでしょうか。

最後にもう一度、気負いすぎず、子どもの心を深いところで読み取るゆとり、まわりの方に協力を求めるしなやかさ、何よりもママがいきいきさを忘れないでがんばってください。

藤岡 佐規子先生  
ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳幼児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会会長・同保育士会会長、福岡県立大学・西宮女子学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 仲間達への定期便(西部読売開発出版部)
- 育てよう、いきいきつ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)
- 視点はいつも、子どもたち 保育園の窓辺から…PART2(蒼丘書林)